

平成26年6月

【配布先：全組合員】

市場情報

日時 平成26年6月6日（金） 12時～14時15分

場所 名古屋・安保ホール

出席数 酒匂委員長他 21名（最終頁参照）

経過

1. 酒匂委員長挨拶

“エアークケット”状態はもうすぐ脱却

最近の当組合の関係会議においては、足元及び先行きの需要動向についてあまり良い情報が入ってこない。日銀短観では製造業の企業マインドが改善しており、経済状況の雰囲気は下振れしているわけではないので、本日はできるだけ明るいところに目を向けて報告していただきたい。造船はバルクの受注が減少しているものの、人手不足問題を抱えピッチアップが難しい状況で、最近4社連合で8隻も受注しており、手持ち工事量の増加が続くだろう。円レートがもし105円まで安くなれば、日本造船業の競争力は省エネの面も含め、中国・韓国には絶対負けないだろう。官公需関係も昨年の2.5倍になり、橋梁は5000億円程度の需要が出るとみられ、これからどんどん発注されるだろう。火力発電関連は、LNG中心に日本企業の独壇場で、重電メーカーはかなりの受注量を抱えている。一方建設現場は、人手や技術の問題等でもたもたしている。ゼネコンは、安値物件はとらない方針で受注を突っ張っている。高炉メーカーは原料高等コストアップ要因や需給タイトを背景に、厚板販価を引き下げる気は全くないようだ。現下のシャワーの仕事量は、一時的な“エアークケット”状態に入っているが、もうすぐ脱却するだろう。近年稀にみる需要の好調さは、向こう3～4年は続くので、組合員の皆さん、疑心暗鬼や一元的見方をしないで、先々に備えながら前進してまいりましょう。

2. 各地区の需要動向

【北海道】

鉄骨建築、堅調を持続

花から祭りへ。今年の北海道のゴールデンウィークは、夏日を思わせるポカポカ陽気が続いた。

『市場情報 H26.6』

桜や梅、チューリップの花々は、春を待ちわびていたかのように一斉に咲き誇り次々と目を楽しませてくれた。

今はその花の季節から、まさに目に鮮やかな新緑模様に移行し、『ライラック祭り』『よさこいソーラン祭り』『北海道神宮祭典』と、ようやく誰もが待ち望む初夏を迎えるところ・・・大陸から真夏を上回る暖かい空気が上空に流れ込み記録的猛暑が各地に影響を与えるなか、十勝の音更町では3日、今年の全国最高となる37.8度を記録、1924年7月に帯広市で記録した北海道の最高気温にならんだ。全国で35度以上の猛暑日となったのは18地点で、このうち17地点が北海道であった。

道内経済の現状は、公共投資の大幅な増額や国内外からの観光客の増勢などに支えられ、建設や製造業、観光産業をはじめ幅広い分野で、企業経営の改善が見受けられ着実に好転している。

しかしながら、公共事業は建設業界の深刻な人手不足に加え、各種資材の価格上昇に伴い供給サイドでの制約が懸念されている。このため学校施設の耐震改修や、橋梁の老朽化による補修工事などの入札不成立が続出している。

道内自治体が2013年度に発注した工事で入札不成立が急増している問題で、道央圏の自治体(7市町)では合わせて前年度の2.56倍の261件の入札が成立しなかつた。全入札件数に占める不成立は10.3%と、ほぼ10件に1件の割合でおきている。

一方、民間分野においても、JR北海道が北海道新幹線開業にあわせて計画していた函館駅前と新幹線の新駅となる新函館駅(仮称)前のビジネスホテルやJF函館駅前で函館市・JR北海道・ペシエミッションの3者が計画していた製菓工場を含む複合施設が新築を断念、新幹線を巡る活性化策に陰を落とした。

やはり、人手不足と資材高騰で建設費が高騰し採算上の問題から凍結されたようだ。このほか、大型商業施設や病院建設などでも同じような着工延期や凍結が相次いでおり先行きの動向が懸念されている。

【鉄骨】

基礎データとなる建築着工統計による平成25年度累計は137,400ト(前年度実績121,100ト)で対前年度比13.5%の増となった。

建築統計による平成26年1月～4月の鉄骨推計は47,400トで前年度実績27,000トに比べ75.5%増加となった。(着工床面積前年度比 木造95.6%・SRC造56.0%・RC造88.3%、S造は181.7%と大幅増、総計109.1%)

また、平成25年度の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量累計は155,655ト(前年度実績123,967ト)で対前年度比25.6%増加した。

『市場情報 H26.6』

共同積算の平成26年1月～5月の累計数量は84,772トン（「そうせいさんく」28,000トンは3月に5,000トン、4月に15,000トン、5月に残をそれぞれ計上）前年度の実績60,054トンに比べ41.1%の増加となった。

今年度は通期で道内、本州物件を含め総量約20～21万トンの鉄骨需要が見込まれており、地場の鉄骨マーケットは明るさを取り戻している。

現状は、今年1月着工したイオンモール旭川や安田生命札幌大通りビルのほか、大型遊戯・複合商業・農業関連の各施設、物流倉庫などの製作加工が潤沢で、ファブ各社とも飽和状態にある。従って、ほぼ全体的に高稼働率状態で推移しており、手持ち量も夏場～秋口まで満杯とぎっしり埋まっている。このことから受注単価は、緩慢ではあるものの上昇傾向にある。

今後の見通しは、禎心会病院新築、札幌信用金庫本店・パルコ新館建設、そうせいさんく、新幹線車両基地三期工事、遊戯施設など大型・中型物件が出件されたことで、夏～秋以降の物件に対して適正価格を目指す交渉環境が揃いつつある。小型物件は、納期と価格面で調整がつかないケースについて見積もりの辞退が出始めているという。

【橋梁】

平成25年度の鋼橋梁需要はNEXCKを含め総量約13,800トン（前年度約4,000トン）と大幅に増加した。

しかし、実際の発注は夏場から下期に集中、大型橋梁は道外ファブが受注したことから、地元ファブにとっては厳しい受注環境を余儀なくされた。

今年度は、ゼロ国債・補正予算による前倒し発注を含め10,000～11,000トン程度が見込まれている。すでに発注されたゼロ国債・補正による前倒し物件についてはファブ間に受注数量に偏重があり、不振だった兼業ファブは鉄骨加工で凌いでいるようだ。

鋼橋梁については、新規製作はもとより耐震補強や床版、橋台の補強補修が切れ目無く適宜な発注が強く待たれている。

【切板】

道内切板の需要構造は、周知の通り建築関連向けや土木・橋梁が主体である。

鋼橋梁については、前述の通りゼロ国債・補正の前倒し発注が1,100～1,200トンと厳しい状況におかれている。

建築向けは、イオンモール旭川や明治安田生命のほか、大型遊技場の加工も4月で峠を越した。大型物件については、端境期であるが中・小型物件である複合商業・農業関連施設や物流倉庫などの道内物件に加え、本州物件が大量に流れ込んできている。

これらを背景にしたシャー各社の稼働状況は、バラツキはみられるものの受注内容に中小物件

『市場情報 H26.6』

が多く、短納期や小ロット多品種・小物・型・異型対応が中心で残業も少なくない状態にある。

厚板素材については、需要の回復から高炉メーカーの引き受け状態が極めてタイトに推移している。メーカー全般に納期遅延が発生しており、S S 400 を中心に欠品が相次ぎ道内シャープ間同士の融通で凌いでいる。全規格とも安定供給と、価格面の大幅変動がないことが望まれる。

今後の状況は、秋口から来春にかけて、札幌市内において J R 札幌駅周辺から大通り～すすきの中心街で、数千トンクラスの大型再開発ビルや病院、遊技場施設の建設計画が目白押しとされている。

このほか、全道各地で複合商業・農業関連施設など中小物件の工事も順調に増加している。

ファブ各社でも高い創業率をキープしている反面、主要鋼材や副資材をはじめとした原材料の値上がり。技術・技能者など人手不足により供給能力に制約が発生している。

これらの影響から物件に対する見積もり辞退が出始めており、選別受注に移行し鉄骨製品の価格水準が上昇傾向にある。

我々業界は「量から質へ」。品質・納期・適正利潤確保。より一層の付加価値拡大を図り、非価格競争の強化に鋭意取り組み、「将来に夢を持てる」シャープ業界を目指す年にしなければならない。

(玉造(株)・西村孝治)

【東 北】

一服感出ているが回復材料揃う

東北地方の平成 25 年度第 4 四半期鉄骨需要量は前年同期比 93%とやや減少した。

福島県が同 153%に対し北 3 県は 77%~96%、宮城県においては 59%と大きく落ち込んだ。沿岸地区の復興需要は土木中心に好調だが、建築関連は病院、物流倉庫など間接的な案件に限られた感があり、被災地の都市計画の遅れを反映させている。

福島県が伸張している要因は、産業復興企業立地補助金制度によるところが大きく、投資予定額 4,132 億円、補助予定金 1,961 億円、雇用予定 4,955 人と需要喚起の効果が期待できるが、他地区との地域格差が広がっており、アベノミクスがもう一つ感じられない印象。

それでも復興住宅の S 造採用の増加、大型耐震改修工事の増加、仙台駅西口開発、また首都圏大型プロジェクトに牽引された景気回復など好材料は揃っているはずである。

依然、人手不足・運送逼迫は続いており五輪需要でそれに伴う材料入手難やコスト増が懸念されるが鉄骨需要の堅調な今、智恵と工夫の出どころである。

(J F E 鋼材東北・大柴宏和)

【東京】

建産機分野の消費税増税の影響は軽微

内外の堅調な需要に支えられ、懸念されていた消費税増税後の落ち込みは限定されたものとなっており、全般的にその影響は限定的でかつ少ないと言える。今後の建設需要から予想される波及効果や設備投資の足元の堅調さからも伺えるように、経済全体の流れには力強さが感じられる。

一方で建設機械や鍛圧機械また重電関連部材の海外生産や調達が中断なく進捗していることや、昨今の政情不安による世界情勢激変の可能性を考慮すると先行きには不安要素が多く、リスクを抱えながらの経営が続くことを覚悟していく必要がある。

【建設機械】

昨年度は好調な内需に加え輸出も増加し堅調が続いたが、転換点である増税後4月の工業会統計でも9カ月連続で前年比プラス(+10.7%)の結果となった。内需は増税後の反動減があるものの、外需でこれをカバーした格好である。

・油圧ショベル 量産機種である中型ショベルの現在の加工量は、反動減から来る生産調整で概ね3月比20%程度の減産となっている模様。夏場からの回復を見込んでいる需要家や、シェアアップを織り込んだ計画の需要家ありで先行きが見通せない状況である。小型は排ガス規制の影響で大幅増産状態。加工重量としては小型だけに中型の落ち込み分をカバーできないものの、操業度の向上には寄与していると思われる。また不振であった大型の生産が底を打ち、回復傾向にある事も心強いところである。

・ミニショベル 住宅需要の増加要因もあり国内向けも堅調(+22.5%)、輸出は北米向けを中心に大きく伸び(+48.1%)、輸出比率が高い機種であることや排ガス規制対応までの猶予期間もあり増税後の影響は無いようである。14年度予測も前年比で約10%以上の生産増を見込んでおり暫くは堅調を維持できそうである。

・建設用クレーン ラフテッククレーンは、内外需共に好調さを持続している。国内向けは公共事業を始めとする建設工事の本格化で、増税後での登録台数に反動減はあったようだが、受注や引き合いの強さから、落ち込みは一時的な現象と判断している模様。また輸出も為替環境好転の影響もあり好調。足元の生産台数は前年比で大きく上回っており(+40%強)、今後の計画はさらに増産見込み。

クレーンも回復基調が持続しており業界全体の足元生産は前年比でおよそ+23%の実績となっている。中国を除くアジア地区向け輸出が堅調であることや国内公共事業等の建設投資を考慮すると、需要は先行きも底堅いとみられる。

『市場情報 H26.6』

【鉱山機械】

石炭及び鉄鉱石の需要低迷が長期に亘っていることから、非常に厳しい環境下にある分野である。需要家の生産計画は低い台数の計画となっており、先行きもなかなか読めないようで暫くは期待できそうにない。

【重電】

火力発電案件の変圧器・遮断器が切板明細として具体化してきているようである。今後の内外における案件も目白押しとなっているようで、原発案件が当面期待できないだけに先行きの火力関連の受注に期待したいところである。冒頭に記したように海外調達との競合もあり楽観はできない状況は続く。

昇降機のエレベータ・エスカレータ向けの受注は前年比で+6%と好調の見込み。現在建設中のビルや、25年以上経過したものの更新需要が今後も見込まれることから、建設の進捗次第ではあるが堅調さは暫く続きそうである。

【鍛圧機械】

国内向けは投資促進税制や補助金の影響もあり、また海外向けは欧米向けが好調であることから、増税後の影響はほとんど無く4月の受注は前年比で28%増の結果となった。前月比では3月が良かっただけに落ちてはいるが、需要家の中には受注残が過去最高のレベルとなっている会社もあり、総じて好調といえる。

・板金系 4月受注は+43%の増加。レーザ・プレスブレーキのいずれも大幅に受注を増やしている。先行きも需要家の見通しは強気であり、当面堅調に推移する見込み。

・プレス系 4月の受注実績は、自動車部品用として大型プレスを中心に受注増となっていることから+26%と好調。この回復基調の流れから関係シャアの切板受注も高水準の状況が続く見込みである。

【ダンプ・トレー】

10トクラスのダンプは各メーカーともフル操業が続き、さらに受注残も大量に抱えているため増産体制を実施する模様。被災地の埋め立てがこれから本格化すること、また東京圏を中心としたインフラ整備等から、5年はこの状態を持続できるとみている。また重機積載用トレーラーも相変わらず高水準の受注を持続しており、この部門は13年度が20%増の結果となっており、14年度はさらに増産が計画されている。

【産機 店売り】

着実に緩やかな受注増となつてはいるが、期待が大きすぎたのかパツとしない状態が続いている感がある。建築関連の動きにスピード感が無くなっている事が大きく影響していると思われる。

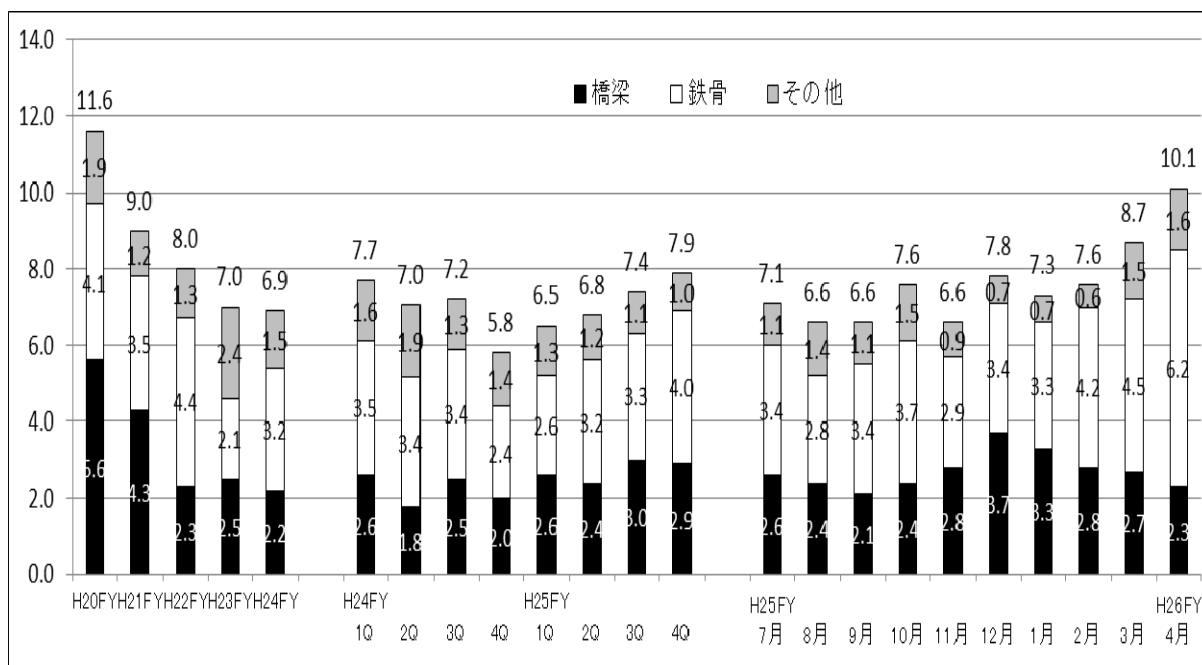
るが、関係シャーは先行きに不安感を抱いていないことはせめてもの救いである。また販売価格の適正化を目指してはいるが、低価格の輸入材入荷や引き合いの緩さ等からなかなか進展せず、苦慮しているようである。

(ニューエイジ・池田啓志)

【東 京】

鉄骨建築は堅調、橋梁は今後に期待

1. 規格建材部会加工量推移 (千ト/月)



2. これまでの実績

【全体】 主力の当地区建材分野の活動は、橋梁については、当地区橋梁ファブの昨年央までの低位落札の影響が残り、シャー加工量も伸び悩んだが、鉄骨ファブはフル稼働を継続したことにより、足元のシャー稼働率は、100%を超えるレベルにて推移。

【橋梁】 昨年度の全国橋梁落札量(H25FY)は、250千ト。一昨年同様、大手関西及び四国橋梁ファブの落札量が上位を占めている状況であり、当地区シャー加工量も低位にて推移。但し、昨年度後半に関東ファブも受注を伸ばし、製作が開始されることから、今後の増加に期待。

【鉄骨】 首都圏大型再開発案件の着工が本格化され、当地区Sグレードファブは、各社ともほぼフル稼働の状況。但し、ファブとGC間での図面承認遅れやファブ能力不足による加工遅れ、また外注対応調整遅れ等により切板明細発注遅れが常態化。シャー側では、安定生産に苦慮。

3. 今後の動向

【全体】 橋梁・鉄骨分野のファブ稼働は、関東地区橋梁ファブの加工量拡大や大型再開発案件の本格着工を背景とした鉄骨ファブのフル生産化の時期を向え、高位の状態が継続する見通し。シャー稼働も主力分野の活動増加に加え、土木プロジェクト(セグメント)の加工時期を迎え、フル生産の状態が当面継続する見込み。

【橋梁】 関東地区橋梁ファブの山積みは、昨年度後半及び新年度落札案件の製作が開始されることから、増加基調に転じ、上期中は高位にて推移する見通し。

本年度の入札量については、震災復興案件含め昨年度を上回る見通しであり、当地区橋梁ファブの落札に期待。

参考1 <全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ト>

	H20FY	H21FY	H22FY	H23FY	H24FY					H25FY (実績)				H26FY (推定)
						上期	3/四	4/四	下期		1/四	2/四	上期	
橋梁入札量	324	305	283	267	230	114	70	66	136	250	62	94	156	260

【鉄骨】 首都圏大型再開発案件の着工が相次ぎ、当地区Sグレードファブは、フル稼働の状態。各ファブとも能力不足問題が顕在化。このファブ能力問題に加え、足元同様に切板明細遅れの解消には至らないため、引き続きシャーは、加工量は高位にて推移する見通しだが、安定稼働に苦慮。

参考2 <全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ト>

	H20FY	H21FY	H22FY	H23FY	H24FY					H25FY (実績)				H26FY (推定)
						上期	3/四	4/四	下期		1/四	2/四	上期	
鉄骨需要量	589	391	418	431	461	256	135	124	259	515	121	125	246	510

(富士鉄鋼センター・三浦潔司)

【東 京】

精彩を欠く浦安地区の店売

浦安地区の一般店売の状況は、4月以降落ち込んでおり、精彩を欠いている。需要は、建産機関係は引続き堅調に推移しており、建築は中小ファブの仕事量がやや一服状態になっているが、先は7～8月頃までの案件が見えており、悲壮感はあまりない。シャーにとっては、踊り場的な状況下で、足元我慢の時期を迎えているが、夏場以降に期待したい。

(武部産業・長澤裕介)

【新 潟】

建築は前年並み

新潟地区の状況ですが、着工面積から算出する H25 年度の鉄骨量は、4～10月は高位で推移し大幅な増加を期待したものの、11月以降減少したことにより8万9千トン、前年度対比110%になりました。

今後の鉄骨物件としても、物件数は増えておりますが、大型の物件は少なく、首都圏などの状況とは少し温度差があるように感じます。

とは言え、菓子メーカーのブルボン本社ビル、栗山米菓の工場新築、ハウスウェア用品を手掛けるパール金属と、アウトドアブランドのスノーピークが物流倉庫を、車載器用機器を手掛ける日本精機の実験棟、金型製造のツバメックスのプレス工場、オーエム製作所の工場建設など民間の設備投資案件や、阿賀野市や南魚沼市の病院建設も動きだしております。計画としては、上越市の水族博物館や武道場などもあり、今年度の鉄骨量としては、昨年度並みでの推移となるのではないのでしょうか。

橋梁も、今年度に関しては県内で大型のもの含み多く発注される予定であります。

このような状況の中で、関東物件も手掛けているHグレードファブなどは来年度春頃までの受注残を持ちフル稼働となっているものの、地場物件中心のMグレード以下のファブは、以前より少なくなっているところも見受けら、濃淡ありますが3か月前後の受注残となっております。

徐々に回復傾向にあった一般店売り分野も、年度変わりの3月から4月の荷動きが鈍く、一旦低調となっておりますし、当地区のシヤ業各社は、大幅な改善を実感することなく、まだまだ短納期や小ロットに悩まされ、稼働率も思いのほか上がっていない状況となっております。

(藤田金属・多村嘉人)

【東 海】

仕事の影は見えても 足元は…

3月～5月の東海地区の産機系店売りシャーは去年の年末まで仕事を確保していたのがウソのように仕事量が少なくなりました。

消費税の駆け込みなどで一部仕事を確保した会社もありましたが、1月～3月の時点では受注件数はそのまま、仕事内容が細かくなり、4月～5月は細かい上に仕事量も落ちてきて、前年同月の比較で前年比を割る会社も多くて、去年の同時期より、単価的には上がっているはずなのに、切断量でも売上でも落ちた会社が増えました。

もともと、消費税増税後の3ヶ月ぐらいは仕事が落ち込むと言われていた事や、ユーザーからは

『市場情報 H26.6』

年の後半になれば、仕事が出るだろうという情報もあって、今は我慢の時と思っているのが現状です。

只、各社とも母材仕入れ価格が上がった割には価格転嫁が進まず、利益を計上出来ない事に悩んでいます。

一方産機系ヒモ付きシャーは、新年度を迎えても、前年と変わらず好調を維持している会社が多いです。

建機 リフト

東海地区はリフト関係の材料に係わっている会社が多く、新年度になっても、リフト自体高位安定な生産を続けているので、前年同月を比較しても、ほとんどの会社が去年同様の材料を納めています。中には6月～7月は排ガス規制の為、少し作り貯めをするだろうと予測する人もいるくらいで、当分この状態が続くと思われませんが、前回は報告したとおり、海外生産に移る機種があるので、これからの動向が気になります。

クレーン シャベル他

前回の報告とまったく変わっておらず、鉱山用超大型建機以外は 好調で、消費税増税後もこの状態が続いています。

特に大型杭打ち機が多く出ているとの報告がありました。

トラック

4 t～7 t ぐらいの貨物トラックは新年度に入ってもピーク時の20%ダウンの生産が続いています。

実際、減った20%は海外生産に移管されているので、今の生産状態を基準に考えると好調を維持していると思います。

その他ダンプやトレーラーのシャーシの生産も好調を維持しています。

鉄道車両

以前から報告している工場の海外移管が間近に迫り、海外工場の稼働により、国内の仕事がどのぐらい残るのが今後の悩みです

産機 鍛圧プレス

新年度に入って消費税増税前の駆け込み需要がなくなっても生産は相変わらず好調を維持しています。

只、製品を組み立てる人が不足している為、なかなか思うように製品が作れないのが現状です。

その他工作機械

ベンダー パンチング バンドソー ファイバーレーザー 等、新年度に入っても消費税増税後の国内向けや 欧米 欧州 東南アジアのへの輸出も相変わらずの好調をキープしています。

I T向け専用機

スマートフォン向けのチップ取り付け専用機は、年明けから海外で生産していた物の一部を国内生産に戻すと言われていましたが、1月～4月までは言われていた量の半分しか発注がなく、5月は在庫を含め言われた量の発注が出ましたが、6月には、また半分に戻ると言われているので、苦戦状態が続いています。

造船 デッキクレーン

少し前まではまったくなかったデッキクレーンも前回の報告から少しずつ生産は戻りつつあります。

暫くはピーク時の半分ぐらいの生産になりそうですが、船種にもよるので多く出てくる事を期待しています。

昇降機

前回報告したとおり、新年度から生産台数が10%増えると言われていましたが、海外生産の兼ね合いと設計変更により、厚板の使用度合いが減っていることや据付をする人が不足しているのもあって、ユーザーから出てくる厚板手配が3月～5月で前年同月比で大きくマイナスしています。

このままでは終わらないと思いますが、厚板が出てくるのが今年の後半からとされているので、期待して待ちたいとおもいます。

店売りシャーは今年に入り、アベノミックスはどうなったんだと思っているかと思いますが、只、国内はオリンピックを控え、インフラの整備や建物の建設、リニア新幹線等、色々と鉄を使用する物が控えているので、苦しい中でも希望をもって仕事をしています。

ヒモ付きシャーもユーザーの工場海外移管とか、海外企業とのコスト競争等、不安な材料もありますが、現在の好調をキープする為に必死で仕事をしています。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

【東 海】

夏以降の大型建築案件に期待

地元ファブ(H および M グレード)の山積みは、工事遅れ等により物件の引き合いは落ち着いてきているが、概ね高水準をキープ。ファブによっては安値受注を回避するため、秋から来年にかけて工程を

空けている会社もある。シャー各社は小口案件が多く、売上げ低調で、受注の山谷も激しい。夏頃から大型建築案件が出てくるので、それまで我慢するしかない。
(中部鋼鉄・南 信年)

【大 阪】

橋梁に期待

1. 全般

(1) 需要

年始から徐々に仕事が減少気味。4月以降は需要が落ち込み。消費税増税の影響もあるか。今後の需要回復が待たれる。

公共事業は仕事が出ており、土木・橋梁は一定の仕事量あり。

(2) 一般店売

建築土木向けは若干出ているが全体的には少ない。4月以降、その日暮らしの状況。引合の状況から、6月もしくは7月から仕事が出てくるとの期待。

2. 需要部門別

(1) 橋梁

平成25年度入札物件の材料手配に加えて、平成26年度入札物件も出ており、上期は仕事多く、能力タイト。下期も同様に入札発注があると見られており、今年度は仕事が多い見込み。

(2) 鉄骨

大阪地区は、フェスティバル西地区が7月以降に切板加工が始まる。ただ、大型案件は期待できず。東京・名古屋などの物件に期待。

(3) 建機

前回と変動なし。あふれるほどの仕事はないが堅調に推移している。小型ショベルなど細かい部材が出ており、足元は仕事あり。

(4) 産機・その他

産機は低位安定で変化無し。機械受注高は伸びているが、海外生産も多く、シャーの仕事は少ない。

(日鉄住金神鋼シャーリング・浅野博之)

(玉 造・棚橋浩司)

【九州】

荷動き停滞も、需要は総じて堅調

3月までの駆込み需要の反動もあってか、4月、5月と荷動きが停滞している状況。販価是正に向けて踏ん張ってはいるが、下値推移の状況が続いている。

【建築】

大手FABの稼働状況は山高状況が続いており、14年度上期中は高稼働が続く見込み。然しながら以前受注した安値案件の継続、人件費、輸送費、電力費用等のコストアップ要因があり完全な回復には至っていない。

足下、福岡市新青果市場、郵政省跡地再開発、新博多ビル等、中型が案件は着工が確定しているが、小型案件には勢いが無く若干減少向にあるのではないかと思われる。

【土木】

2013年度九州地区、公共工事請負金額は前年度比プラス17.6%となっている。4月は前年比+2.7%で伸び率が落ちている状況。

例年通り、新年度に入り第1四半期は新規物件は低調。又作業員不足の問題により、入札不調、入札延期も散見される。至近の仕事量は継続工事（九州新幹線）及び西九州道、東九州道、中央九州道等の道路関係が動いている。

【橋梁】

九州FABの稼働状況は、昨年受注分の加工が上期に入っており、小口案件が多いながら昨年よりは、高い山積みとなっている。全体では2013年度の橋梁発注量は26.5万ト。前年度並みの水準。2014年度は28万トの予測。

【産業・建設機械】

円安効果もあり、受注増加傾向だが日本国内の製造は限定的。一部の産機系会社では、2014年度の見通しは前年より下回る計画が出されている。中・韓の競合企業との価格、納期競争が激しく、至近失注案件もでてきているとのこと、輸出比率が多いことから材料調達も海外調達比率が増加傾向にある。

建機系では九州地区建機メーカーは、13年度の好調な生産を継続し、14年度も前年を上回る計画となっている。

【造船】

総じて各造船所とも去年より受注を増やしており、仕事量は2年～3年分は確保している状況。但し、外航船のドル船価は上がっておらず、機器のコストも上昇。

良い船価の船を入れてピッチを上げたいものの、人、外注ブロック加工先の能力不足でなかなか

『市場情報 H26.6』

かピッチアップ出来ない状況。

内航船マーケットは、砂利運搬船、セメント、その他貨物船を中心に良くなっているものの、リピート船主が多く、また傭船料が上がっていないことから船価はなかなか上げられない状況。内航中心の中小造船所は、去年からできる範囲内でピッチアップしており、鋼材発注量も今年に入り10%~20%は増加している。内航船はこれからリプレースの時期にかかり、発注は今後3~4年間は減らない予測。

・6月3日 シャーリング工業組合 九州支部の報告 (出席:15社)

工場稼働

70%台	1社
80%台	6社
<u>90%以上</u>	8社
	15社

(豊鋼材工業・牧野智治)

【九州】

建材分野は一服感あり

当地区は建材系に偏重する市場であり、足下は一服感が漂う。特約店の倉だしの荷動きも悪く、シャーの受注格差も見られ、切板の安価も聞こえてくる状況である。

【建機】

地場小型建機メーカーにおいては、生産台数の大幅上乘せを見込んでいる。

2013年	14,000台
2014年度計画	15,000台
2014年度見直し計画	17,000台(過去最高値)

国内をはじめ北米欧州とも需要増。同社においては稼働日増加と日当り生産台数を上げ対応。

【造船】

当地区においては中小造船所のケミカルラッシュが始まっている。

地場中堅 F造船は福岡工場、長崎工場ともに2016年度一杯までケミカル造船を中心に建造予定を確保しており、特に長崎工場では大型ケミカルの建造が続く予定。

2015年度までの建造船については操業度重視のため、早期にグリップし収益面に問題が、残るが、現状は改善傾向にある。

ミルメーカーは、ケミカル船建造ラッシュを受けて、グラッド鋼が超タイト化。他造船所と

の兼ね合いの中、納期調整が激化している。

厚板については、ハウジングの工事後の立ち上がりは良好。需要は継続して旺盛のため、引き続きタイト感は続く見込みである。型鋼は上期予定に対し満額の枠が確定していない状況で、リードタイムを調整している。

《トピックス》

名村、SSK 統合 10月1日株式統合にて完全子会社化

建造量国内3位に浮上し、シナジー効果を発揮し中・韓勢に対抗する。

名村造船所・伊万里事業所とSSK・佐世保造船所は、直線距離で約23kmと近く、ばら積み船など主力事業内容が似通っている。

両社の事業所の近さは、設計・開発・資材調達の連携に有利である。

付加価値の高い環境対応、船舶の開発など、新たな成長分野に挑戦する模様。

昨年来の円安で統合時期もタイムリーである。

【建築】

JR九州関連の出件が目立ち、大分駅前、博多駅隣接地の再開発事業が地場大手Hグレードの稼働を押し上げている。しかしながら中小案件のボリューム感が乏しく、Mグレード以下は山積に差異が生じ、受注価格を含め調整局面を迎えている。

消費税増税による駆け込みの反動と季節要因にて、建材系シャーは稼働率を落している。

需要の東高西低マップは顕著に見られ、首都圏案件の流入が多くみられる。年度内には大型案件は完工し、大手ファブは関東案件中心の稼働となる模様。

ただし、4面BOX造超高層案件等はハード(大型クレーン)スキルを含め数社に限定される。全国的には堅調な展開ではあるが、大手製造業の設備投資中心であった当地区鉄骨需要に不安視する声が聞こえる。

(トキワスチール・岡 哲朗)

3. 石原理事長挨拶

「全国各支部の代表委員から報告をうかがって、地区ごとに温度差があり、まだら模様の状況にあるようだ。需要は五輪開催時まで堅調に推移するとみられるが、そうした中でシャー業の経営的視点から考えると、関係業界との間に横たわる様々なネックやギャップを解消して行かないと、需要を待っているだけでは個社の収益にはなかなか繋がらないと思う。この辺の業界共通の課題・問題点は情報交換しながら解決策を見つけ、効果を出すしかない。ユーザーとの交渉は個社で実施するが、歩留まりの悪化や2～3次加工の増加などが進展する状況下、いかに適正対価

『市場情報 H26.6』

をユーザーからもらうかが究極的な目標である。そうしないとシャアの企業体力を日々消耗させるばかりだ。早く実例として、“いい話”を紹介できる時期が来ればと考えている。今後とも皆さんのご協力を是非お願いしたい。」

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

委員長・ 酒匂 (京浜産業)
ゲスト・ 石原 (理事長/J F E 鋼材)
ゲスト・ 大住 (理事総務委員長/富士鉄鋼センター)
ゲスト・ 高木 (東海支部長/三和鐵鋼)
北海道・ 西村 (玉造(株))
東 北・ 大柴 (J F E 鋼材)
東 京・ 池田 (ニューエイジ)、
三浦 (富士鉄鋼センター)
長澤 (武部産業)
新 潟 多村 (藤田金属)
東 海・ 鈴木 (鈴将鋼材)
南、村山 (中部鋼鉄)
山村 (熱金鋼業)
堀場、魚住 (三和鐵鋼)
大 阪・ 浅野 (日鐵住金神鋼シャアリング)
棚橋 (株玉造)
九 州・ 牧野 (豊鋼材工業)
岡 (トキワスチール)
事務局・ 柘野

4. 次回の開催日時・場所

第162回市場委員会

平成26年9月4日(木) 12時

東京鉄鋼会館 802 号室

以 上